

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12月15日他実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①単位制の利点をいかして、適切な教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組む。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びや探究活動が進むよう組織的な授業改善と研究開発に取り組む。</p>	<p>①多様な入学動機や進路希望、学習経験を持つ生徒が、新旧それぞれの教育課程で学ぶことにより、進路実現が実るよう、組織的に学習支援を行う。</p> <p>②生徒が深く学べ、新しい時代に求められる資質・能力の育成を目指し、学びの質を支える目的で授業研究を行う。</p> <p>③一人一台PCの活用を促進する。</p>	<p>①選択科目説明会や予備調査・本調査に至るまでの指導に重点を置き、個々の生徒にあった履修指導ができるよう、学年、所掌グループが連携し行っていく。</p> <p>②研究授業を実施しながらアクティブ・ラーニングによる授業をより進化させ深い学びの実践を強化する。</p> <p>②生徒に対し、探究心や実践力を身につけさせ、変化の大きい社会で対応できる能力を育成するため、「全員発揮のリーダーシップ教育」をより研究し、実践する。</p> <p>③一人一台PCの活用率を上げるための職員研修を行う。</p>	<p>①生徒の進路志望に対応した科目履修ができたか。また、適切な時間割編成ができたか。</p> <p>②教科、科目を超えて活発な情報交換ができ、生徒による授業評価の授業に対する満足度の数値が上がったか。</p> <p>②生徒が自分の意見を確立していく中で、他者の意見にも耳を傾け、総合的に「困難な状況」に対応できる能力を育成することができたか。</p> <p>③一人一台PCの活用を促進するための職員研修や授業研修を行ったか。また、生徒の活用率が上がったか。</p>	<p>①選択科目説明会やカウンセリング週間での三者面談などを通じて、10月末で生徒一人ひとりに対応した科目選択を確定し、時間割作成に着手した。</p> <p>②21世紀型リーダーシップの有用性について職員研修で理解を深めた。また、生徒はSDGsをテーマに、リーダーシップ最小三行動を確認し、「権限によらないリーダーシップの発揮」について学んだ。</p> <p>②「思考力・判断力・表現力を育成するアクティブ・ラーニングの授業」というテーマで、国語・数学・家庭科・リーダーシップ開発の授業で研究授業・研究協議を行った。また、全職員が同テーマで、実験授業を行い、検証した。</p> <p>③職員向けに資料を配信して研修を行った。</p>	<p>①生徒の選択科目の組合せと非常勤講師などの希望勤務時間を調整し、1月末までに時間割一次案を作成する。</p> <p>②21世紀型リーダーシップをどのように教科指導に結びつけるかまだ十分に具体化できていないので、さらに研修を積み重ねる必要がある。アクティブ・ラーニングによる授業にリーダーシップを発揮をリンクさせ、生徒があらゆる機会でも活用できるよう推進を図る必要がある。</p> <p>②全教員が提出した実験授業の報告書を共有し、授業改善に生かす。さらに後期の授業評価を総括し、次年度のテーマを導き出していくようにする。</p> <p>③1年次では、ほぼすべての教科・科目でPCを活用した。2・3年次も総合やキャリアで活用した。</p>	<p>・カリキュラムの変更で1年次と他の学年で科目が異なり苦勞された。</p> <p>・90分で定着したアクティブラーニングを50分に対応されている。</p> <p>・生徒が自分たちで選んだ授業ということでも主体的に取り組んでいる。</p> <p>・「公共」は社会人として社会に対する貢献・義務を学ぶ場では、政治的なタブーがあるとはいえ、政治参加教育は必要。自ら考え議論するアクティブラーニングは意味があつて重要。</p> <p>・アクティブラーニングは先進的な取組である。指定が外れて、さらに自由な研究ができるのではないか。</p> <p>・歴史総合など、昔ながらの暗記ではなく、生きた歴史を教えていると感じた。</p> <p>・わからない生徒に対しては先生が個別に丁寧に指導していた。</p> <p>・リーダーシップ開発の生徒が清水中学で授業を行い、中学生にも好評であった。</p> <p>・一人一台PCに先生たちも慣れてきて、活用の工夫が行われている。</p>	<p>①生徒の選択希望を踏まえた時間割一次案を予定通り1月末までに作成することができた。</p> <p>年度末までに、単位認定会議での生徒の履修・修得結果や教員の人事調整を踏まえて時間割を確定するとともに、クラス編成をする。</p> <p>②各教科の研究の結果、アクティブラーニングによるグループワーク、一人1台端末を利用したプレゼンテーション等、教員の工夫で生徒の主体性を持った思考力・判断力・表現力の育成を行うことができた。</p> <p>教員の支援をどの程度行い、生徒の主体性や知識の定着に結び付けていくかが今後の課題である。</p> <p>②21世紀型リーダーシップは「リーダーシップ開発」など特定の科目においては大きな成果を上げている一方、他の科目においては、学校全体で組織的に取り組む姿勢がまだ不足しているように思われる。ここ数年の教職員の異動の影響もあるかとは思いますが、研修の回数や内容の工夫等で改善を図っていく必要がある。</p> <p>③すべての教科で一人一台PCの活用ができた。</p>	<p>①新旧それぞれの教育課程で学ぶ生徒一人ひとりの進路実現に向けた科目履修・修得に向けた学習支援を行う。</p> <p>スムーズな時間割編成をするため、時間割作成ソフトの活用方法などを検討していく。</p> <p>②アクティブラーニング型授業に、本校の特色であるリーダーシップ教育をさらに強く結びつけて、より主体的な学びを実現させていくようにしていきたい。</p> <p>②21世紀型リーダーシップについては、教員研修の回数を増やし、授業、行事、部活動等様々な場面での具体的な活用方法を習得できるよう、内容面で工夫する必要がある。併せて、生徒対象の研修も継続して実施する。</p> <p>③一人一台PCの活用については、引き続き新たな可能性を探っていくことが求められる。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①部活動の充実を学校全体で支え、部活動を通じて豊かな人間性や社会性を培う。</p> <p>②組織的な生徒指導・支援体制を充実させ、生徒一人ひとりにきめ細かく対応する。</p>	<p>①部活動の充実を学校の特色と位置づけ、生徒の部活動に対する意識をより向上させるために、顧問の指導力の向上と、生徒の部活動加入率を上げる</p> <p>②服装・頭髪指導、交通安全指導を組織的に行い、生徒の生活習慣の確立や問</p>	<p>①試合やコンクール等の結果だけにとらわれず、生徒の日々の充実感を意識して、指導する。また、夏休みの部活動紹介イベントで、再度加入促進を図り、部活動加入率80%を目指す。</p> <p>②職員の情報共有、共通理解、統一指導を実現する。</p>	<p>①日々の活動の充実感を生徒は感じる事ができたか。また、部活動加入率が80%を超えたか。</p> <p>②服装・頭髪の指導件数が減少したか。また、交通安全指導などを行った結果、交通事故の減少や生徒のマナーの向上が図られたか。</p>	<p>①5月現在の入部率は75%であったが、本年度はその後の退部者が多くみられた。</p> <p>②職員間での情報共有、共通理解、統一指導の展開により、指導件数の減少、交通事故の減少や生徒のマナーの向上へと繋がった。</p>	<p>①1年次に対して、新年度になる前の再入部を勧める。そのため、ポスター掲示やホームルームでの働きかけを行う。</p> <p>②今後も常に職員間の情報共有・共通理解、統一指導の展開を図り、生徒一人ひとりにきめ細かく対応しながら、問題行動の未然防止、生徒の</p>	<p>・部活が盛んで、成果もあげている。</p> <p>・部活動の生徒が、小学校に来てくれたことも非常に良かった。他年齢の交流は貴重である。</p> <p>・生徒が、よくあいさつをし、親切である。</p> <p>・自転車通学で危険な場面や、防犯上の課題もある。三校で情報共有をしたい。</p>	<p>①本年の部活入部率は、目標を10%下回った。部活により人気の偏りがあり、夏休み前の退部者が増加した。</p> <p>②職員間での共通理解と協力のもと、服装頭髪等における統一した指導の展開を図ることができ、指導件数も減少した。しかし、学校生活における問題行動が多少増加した。</p>	<p>①4月の新入生の入部勧誘と、夏休みの中学生向けの「部活動見学会」に校内生徒で部活動を離れた生徒の参加を促し、入部率の向上を図りたい。</p> <p>②今後も常に職員間の情報共有・共通理解、統一指導の展開を図り、校内外の巡回指導の強化を図り、生徒一人ひとりにきめ細かく対応しながら、問題行動の未然防止、生徒の生活習慣の確立に努める。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12月15日他実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			題行動の未然防止に取り組む。				生活習慣の確立に努める。			
3	進路指導・支援	①キャリア教育を通じて自らの課題に前向きに取り組む生徒の育成を図る。 ②生徒の進路希望実現に向けてきめ細かな支援を組織的に行う。	①総合的な探究の時間において各教科・科目が連携して組織的なキャリア教育を実践する。 ②進路実現に向け生徒が主体的に学力向上に取り組み、自ら進路実現を達成する。	①生徒対象の進路説明会や年次行事、キャリアガイダンス等を通して、進路実現に向けた意識付けを行う。 ②外部試験の導入と活用により主体的な学びを伸長するとともに、オンラインによるポートフォリオを作成することができたか。	①進学希望生徒の90%以上、就職希望生徒の100%が希望通り進路実現ができたか。 ②外部試験の結果を学習習慣に繋がれたか。1年次では電子データで、2年次ではファイルでポートフォリオを作成することができたか。	①外部講師を活用したガイダンスにより、生徒の進路に向けてのモチベーションが高まるよい機会となった。 ②1年次の外部試験は英語四技能育成に有効であった。一方、オンラインによるポートフォリオは、生徒が必要なタイミングで入力できる一方、教員側が促さないとなかなか成果を記録しない実態も窺えた。	①外部講師によるガイダンスは今後回数を増やし、さらに充実させた。 ②校内だけでなく校外で実施された検定試験にも、今後積極的に参加するよう生徒に促す。オンラインによるポートフォリオでは、生徒が一斉に取り組む機会を増やし、キャリア形成に対して一層の意識啓発を図る必要がある。	・外部試験の導入を評価する。英検なども、学校でもっと進めて欲しい。 ・大学入試で技能審査をポイント化しているところもあるので参考にして欲しい。	①外部講師を招いてのキャリアガイダンスや、大学等の教員による動画視聴により、生徒の進路意識がより具体化され、主体的に行動する生徒が増えている。今後は、生徒一人ひとりが将来の学問内容に向けて、総合的な探究の時間における探究のテーマと紐付けることで、主体的かつ深い学びが進むよう支援する必要がある。 ②英語の外部検定は大学入試も意識しながら、生徒の意欲を高めるため継続する。オンラインでのポートフォリオ作成は、生徒任せでは、なかなか進まなかった。	①総合的な探究の時間での学習活動を3年間の枠組みとしてどのように展開していくべきか、LHRの年間計画と絡めながら、再度検討する必要がある。 ②外部検定試験については、これまで以上に生徒に受験案内の機会を増やし、意識の啓発を図る。ポートフォリオについても、高校卒業後の進路だけでなく、自身のキャリア形成とも深く関わっていることを生徒に理解させ、主体的に取り組むよう粘り強く指導していく必要がある。
4	地域等との協働	①地域との協働を推進し、地域とともにある学校づくりを進める。 ②地域貢献活動などを通じて、地域と連携した教育活動を推進する。	①学校説明会や部活動見学を通じて本校の魅力と特色を広報する。 ②地域貢献活動や地域イベントへの参加を推進し、地域との交流を図る。	①ポスター配布や学校説明会を通じて、地域の中学校や保護者に本校の特色を広報する ②3校交流の幹事校として、事業内容の検討、調整、実施を図るとともに、生徒に奉仕の精神を養わせる。	①学校説明会に参加した中学生が、本校への志望に繋げることができたか。 ②3校交流により、生徒が奉仕の精神を育み、積極的に参加する姿勢を示すことができたか。	①学校説明会では、生徒会本部、部活の協力を得て行った結果、中学生からの評判が良かった。 ②コロナの状況が好転せず、難しい活動となっている。「ひまわり作業」については、3年次、エコ委員会を中心に昨年より成果をあげた。	①現状で効果的な方法を生徒の意見を積極的に取り入れながら、学校説明会全体を見直していく。 ②来年度に向けて計画立案と、新校への引継ぎも念頭に、行事の精選と拡充を模索する。	・「まじめがかっこいい」を学校説明会で説明しており、派手なことを好む生徒は入学してこないためか、おちついていて人が良い。 ・コロナのこともあるが、貴重な機会なので、外であれば3校交流をもっと推進しても良いのではないかと。	①学校説明会を2回、オープンスクール、部活動見学デー等、毎回、定員を超える申し込みがあった。別の日にもミニ説明会を設定して、本校の特色について理解してもらうことができた。再編統合に向けて、どのように本校が変わるのかを伝えることが必要である。 ②「ひまわりの作業」のみの実施であった。社会状況に応じた対応を3校の協議で企画実施したい。	①本校の新カリキュラムの内容や再編統合に向けたビジョンに対応した広報の内容を整理して、わかりやすく、丁寧に、中学生、保護者に理解してもらえるよう、学校説明会等を企画してゆきたい。 ②生徒の活動する場面を、年次、委員会、部活等で増やしていきたい。
5	学校管理 学校運営	①教育環境の整備に努め、安全、安心で明るい学校づくりを推進する。 ②事故・不祥事防止を徹底する。教員の働き方改革を推進し、前向きに働ける職場づくりに努める。	①耐震化工事に伴う校舎の環境に対応し、工事後、元の校舎に戻った際、安全で衛生的な環境を持続するようにする。 ②事故・不祥事防止に向けた取り組みを行う。また、閉庁日を5日以上設定し、働き方改革を推進していく。	①日常の清掃活動や整理整頓を持続的にできるようにする。また、備品や消耗品の適切な管理を日頃より行う。 ②職場内の情報共有を心がけ、風通しの良い職場環境の整備を図る。事故・不祥事の未然防止のため、組織的に業務にあたる。 ③閉庁日を設置し、教職員の心身の健康増進を図る。	①備品や教材が適切に管理された上で円滑に活用され、それにより生徒の学習効果が上がったか。 ①清掃活動や整理整頓が日常的に行われたか。 ②情報共有を行った上で、報告・連絡・相談が素早くでき、事故や不祥事を未然に防げたか。 ③閉庁日を設置し、教職員の心身の健康増進に繋がることができたか	①清掃計画・清掃分担通りに行った。さらに行事・試験・長期休業前後の掃除・整頓にも努めた。 ②事故につながりかねない事案や生徒の安全安心に係ることについて、徹底した情報共有ができた。 ③閉庁日を5日間設置でき、職員の心身の健康増進に資することができた。	①授業が毎日7時間目まであり、放課後の清掃が困難な箇所が多数存在している。 ②定期的に事故・不祥事防止会議を行うとともに、事案が起きる度、全体での情報共有を引き続き行っていく。 ③閉庁日を完全実施するとともに、職員の働き方改革について冊子を配布して啓発を来年度も行っていく。	・耐震工事が終わり、教室が明るくなり、生徒が生き生きと教育活動を行っている。 ・生徒個人情報の範囲や試験の実施など、ヒヤリハットの事例に遭遇した都度、事故不祥事防止会議を開催し、情報共有と啓発に努めることができた。 ・閉庁日を完全実施できた。 ・長時間労働の職員については、原因を突き止め業務改善を図ることが、産業医のミッションである。	①適切な備品・消耗品の管理により、校舎移動がスムーズに行われ、学校活動が円滑に実施できた。また、生徒の学習効果を上げるため私費によりHR教室等に遮光カーテンを設置した。 ②清掃活動が充分に行うことができない箇所があった。 ③定期的な事故・不祥事防止会議により、安心安全な教育活動を行うことができた。 ④閉庁日を実施し、所属のストレスチェック結果も良好であった。	①清掃活動の徹底には、授業時間の検討、テストや行事の前には放課後ではなく、清掃時間の確保が必要である。 ②引き続き不祥事ゼロプログラムを策定し、事故・不祥事防止に取り組んでいく。 ③一部、長時間労働の職員については業務改善を図る必要がある。